

## 協会に事務局を置く団体

### 神奈川県消化器病医学会

本会は、県下の消化器病学に関する学術・技術の向上と関係者相互の親睦を図り、もって医道の昂揚と社会福祉に寄与することを目的として設置された神奈川県医学会の分科会の一つである。昭和34年神奈川県消化器病研究会として発足。その後名称を改めて県下の消化器病学の発展に貢献しつつ現在に至っている。

会の活動は春季の研究会、秋季の総会を中心に肝臓膵疾患研究会を加え定期的な活動を展開している。県下にある横浜市大、北里大、東海大、聖マリアンナ医大、昭和大(藤が丘)、帝京大(溝口)、日本医大(第二)などの大学病院をはじめ公私立病院と地域医療とを結ぶ実践的な活動を行い、県下の消化器診療に果たす役割は大きくなっている。

当協会では51年から事務局を担当し、事務処理方法の改善、財政の確保に積極的に取り組むなど、会の発展に努めている。

なお、現在会員は個人会員506名、施設会員149施設と役員会員181名である。平成13年度の活動は次の通り。

#### 第46回研究会

日時 13年6月23日(土) 13:00~

会場 パシフィコ横浜

世話人 けいゆう病院 外科 石川 廣記  
消化器科 神谷 知至

内容 一般演題29題

特別講演「逆流性食道炎の治療とBarrett食道」

東海大学外科 幕内 博康教授

参加者 157名

#### 第34回総会

日時 13年12月1日(土) 13:00~

会場 横浜市市民文化会館(関内ホール)

世話人 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院  
消化器内科 鈴木 博

内容 一般演題19題

特別講演「肝発癌の制御」

岐阜大学第一内科 森脇 久隆教授  
ワークショップ「B型肝炎のラミブジン治療」  
司会 昭和大藤が丘病院消化器内科 与芝 真  
聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院  
消化器内科 佐藤 明  
参加者 138名

#### 役員 (敬称略・50音順)

会長	青木 誠孝	神奈川県予防医学協会
副会長	小泉 博義	藤沢湘南台病院
"	南 康平	丹羽病院
幹事	池 秀之	横浜市大市民総合医療センター外科
"	上野 文昭	大船中央病院内科
"	遠藤 徹	聖マリアンナ医大消化器内科
"	長田 信	大迫内科クリニック
"	勝又 伴栄	北里大学東病院内科
"	酒井 滋	帝京大学溝口病院外科
"	渋谷 明隆	北里大学東病院内科
"	島田 英雄	東海大外科
"	鈴木 亮一	横浜市立港湾病院内科
"	高橋 俊毅	国立相模原病院外科
"	田中 克明	横浜市大市民総合医療センター内科
"	玉井 拙夫	神奈川県立がんセンター消化器内科
"	田村 聡	田村医院
"	多羅尾和郎	神奈川県立がんセンター消化器内科
"	峯 徹哉	東海大消化器内科
"	与芝 真	昭和大藤が丘病院内科
監事	岡部 伸彌	岡部医院
"	田中 昭平	横須賀市立市民病院

(事務局・青木 誠孝)

## 神奈川県消化器集団検診機関 一次検診連絡協議会

本協議会は老人保健法施行に伴い昭和57年2月、日本胃集団検診学会(現：日本消化器集団検診学会)関東甲信越地方会実施機関部会における、各県単位に「協議の場」を設置することの申合せにより発足し、満20年余を経過した。

発足以来、県内における老人保健法に基づく胃がんの住民検診を行う一次検診実施機関の精度管理の向上と行政、医師会をはじめとする関係機関との連携強調を図り、共通の諸問題の研究、技術の向上を目指して討議を行い、胃がんの検診の充実、発展を図ってきた。

当協会は発足当初より事務局を引き受けている。

### 1. 協議会の開催

(1)第51回協議会(平成13年7月10日)  
会場：(財)神奈川県予防医学協会 役員室  
平成12年度事業報告及び会計報告  
検診料金改定経緯について  
「胃集検・大腸集検の実態に関する調査」  
(消化器集検学会、全国集計委版)の本協議会集計について  
研修会について  
日本消化器集検学会及び関東甲信越地方会の近況について  
その他

(2)第52回協議会(平成14年1月18日)  
会場：(財)神奈川県予防医学協会 役員室  
平成14年度検診料金改定について(経過報告応)  
県下集計について  
日本消化器集検学会および関東甲信越地方会の近況について  
その他

### 2. 幹事会の開催

(1)第61回幹事会(平成13年7月3日)  
会場：(財)神奈川県予防医学協会 役員室  
平成14年度向け検診料金改定案の検討  
かながわ健康プラン21活動計画調査について  
その他(全国集計について)

(2)第62回幹事会(平成13年7月10日)  
会場：(財)神奈川県予防医学協会 役員室  
協議会議題内容について確認

(3)第63回幹事会(平成13年12月12日)  
会場：(財)神奈川県予防医学協会 役員室  
平成14年度向け検診料金改訂について(経過報告)  
研修会について  
その他

(4)第64回幹事会(平成14年1月18日)  
会場：(財)神奈川県予防医学協会 役員室  
第52回協議会の議題内容の確認

### 3. 研修会

日 時：平成14年1月18日(金)  
会 場：(財)神奈川県予防医学協会 役員室  
テーマ：『人権について』  
講 師：神奈川県 県民部 人権男女共同参画課  
主幹 中村 猛 先生

### 4. 講習会

#### がん検診X線撮影従事者講習

日 時：平成14年2月21日(木)  
会 場：神奈川県総合医療会館 6階 看護協会研修室  
テーマ：

「神奈川県下マンモグラフィ装置実態調査報告」

講師 神奈川県予防医学協会  
放射線技術部長 萩原 明

「乳房X線写真による診断学」  
講師 聖マリアンナ医科大学病院  
放射線科 印牧 義英

「上部消化管の診断に関する考察」  
講師 鶴川医院院長 鶴川 四郎

主 催 神奈川県福祉部高齢者保健福祉課

\* 共催機関

神奈川県消化器集団検診機関一次病検診連絡協議会  
(財)かながわ健康財団・がん対策推進本部

### 神奈川県消化器集団検診機関

#### 一次検診連絡協議会名簿

(敬称略・順不同)

横浜市立市民病院がん検診センター所長	今村 清子
川崎市がん検診センター所長	稲垣 徹
(財)逗葉地域医療センター施設長	田中 昭平
(医)松英会 総合健診事業部理事長	寺門 運雄
(財)京浜保健衛生協会理事長	矢作 淳
(医)倉田会 くらた病院健康管理室主任	千葉 仁一
神奈川県厚生農業協同組合連合会常務理事	門倉 光重
(財)神奈川県労働衛生福祉協会会長	角田 昭夫
(財)結核予防会神奈川県支部専務理事	吉田 英男
(財)神奈川県予防医学協会理事長	土屋 尚
神奈川県立厚木病院病院長	岡部 武史
(医)社団相和会産業健診事業部理事長	土屋 章
(医)藤順会藤沢総合健診センター理事長	石井 敏之

#### 相談機関

神奈川県福祉部高齢者保健福祉課課長	杉山 嘉男
神奈川県医師会理事	石井 出
神奈川県医師会理事	内田 健夫
日本消化器集団検診学会関東甲信越地方会技師長	村西 久幸
日本消化器集団検診学会関東甲信越地方会常任世話人	坪井 晟

(平成14年8月20日現在)  
(事務局・熊沢 英明)

## 神奈川消化器内視鏡技師研究会

本研究会は消化器内視鏡が安全に行われるために、県下の消化器内視鏡技師を養成し、その技術の向上をめざすとともに関係者相互の親睦を図る目的で設立され活動を行っている。

今年度は、5月に横須賀共済病院の松岡幹雄医師のお世話により、横浜市健康福祉センターホールで行われた。

午前中のセミナーでは、「二つの新しい高レベル消毒薬」についてメーカーと使用施設からその特性や効果と注意点などが話された。特別講演では、横須賀共済病院の深沢信悟医師による「ビデオで学ぶ腹腔鏡下の手術」の講演があり、またパネルディスカッションとして「内視鏡技師の役割と業務」が行なわれた。

特別講演は興味ある内容で、ビデオでは最新の手術を学ぶことができた。パネルディスカッションは、消化器内視鏡技師の資格と看護師や検査技師などの資格を持つものが多く、業務範囲に違いがあるため各施設で人員の配置等に特性があった。

今回は、定員ぎりぎりの参加者があり内視鏡業務への関心が高まっていると感じた。

今後とも、専門知識の獲得や技術を向上させ、正しい情報を提供できる場として研究会を発展させていきたい。

### 最近の活動状況

第22回神奈川消化器内視鏡技師研究会

日時 平成14年5月19日(日)

会場 横浜市健康福祉センターホール

技師世話人 横須賀共済病院

内視鏡室 木下美智子

内容

セミナー「二つの新しい高レベル消毒薬」

一般演題 5題

特別講演 「ビデオで学ぶ腹腔鏡下の手術」

パネルディスカッション

「内視鏡技師の役割と業務」

入場者 300名

### 役員(五十音順)

青地 広美 横浜市立大学  
片野早江子 聖マリアンナ医科大学病院  
上條のり子 昭和大学藤が丘病院  
木下千万子 淵野辺病院  
木下美智子 横須賀共済病院  
佐藤 和夫 神奈川県労働福祉協会  
佐伯 美奈 聖マリアンナ医科大学横浜西部病院  
菅原ゆかり 松島クリニック  
瀬戸 道雄 青木医院  
谷合 幸乃 横浜市立港湾病院  
納所けい子 神奈川県予防医学協会  
花木由香里 東海大学病院  
藤井あずさ 丹羽病院  
藤田 賢一 帝京大学溝口病院  
藤森 弘樹 昭和大学藤が丘病院  
松橋 妙子 国際親善病院  
三浦 美保 北里大学東病院

(事務局・納所けい子)

## 横浜市乳がん検診協議会

横浜市の乳がん検診は、昭和55年11月より開始された。

本会は検診体制の整備、改善などの精度管理面の検討と、検診の円滑かつ効果的な運営をはかるため、専門的な立場から調査、審議を行うことを目的として昭和56年7月18日に設立された。

当協会は発足当初より、事務局を引き受けている。

13年度の活動は以下の通り。

**幹事会**(13年8月7日)

(1)12年度検診実施状況報告

(2)マンモグラフィ併用乳がん検診について

(3)12年度報告書作成担当機関について

協議会(14年3月29日)

(1)12, 13年度検診実施状況報告

(2)新年度計画について

(3)横浜市マンモグラフィ検診実施状況報告

(4)学会報告

その他

『平成11年度横浜市乳癌検診報告書』発刊

平成13年日本乳癌検診学会にて発表

### 横浜市乳がん検診協議会名簿

(敬称略・順不同・平成14年3月29日現在)

会長	土屋 周二	横浜市立大学医学部名誉教授
幹事	真田 裕	昭和大学藤が丘病院外科助教授
"	高梨 吉則	横浜市立大学医学部外科第一講座教授
"	嶋田 紘	横浜市立大学医学部外科第二講座教授
"	福田 譲	聖マリアンナ医科大学乳腺内分泌外科助教授
"	須田 嵩	済生会横浜市南部病院外科部長
"	渡邊 哲	横浜市衛生局保健部長
"	田村 暢男	神奈川県予防医学協会理事・専門委員
委員	利野 靖	横浜市立大学医学部外科学第一講座講師
"	石川 孝	横浜市立大学医学部外科学第二講座助手
"	渡辺 弘	聖マリアンナ医科大学名誉教授
"	石田 和夫	北里大学病院外科講師
"	福島 恒男	横浜市民病院外科部長
"	吉田 悟	横浜市立港湾病院外科部長
"	清水 哲	横浜南共済病院外科部長
"	佐藤 博文	横浜栄共済病院外科部長
"	大井田尚継	社会保険横浜中央病院外科部長
"	高橋 利通	横浜掖済会病院外科部長
"	竹村 正伸	横浜勤労者福祉協会汐田総合病院外科部長
"	石川 廣記	神奈川県警友会けいけいゆう病院外科部長
"	上妻 達也	横浜船員保険病院外科部長
"	山中 研	横浜赤十字病院外科部長
"	西山 潔	国立横浜病院外科医長
"	田村 功	藤沢湘南台病院外科
"	桜井 修	横浜旭中央病院外科
"	石川 秀一	横浜市衛生局健康増進課長
"	土屋 尚	神奈川県予防医学協会理事長

(事務局・栗原 博)

## 横浜市マンモグラフィ総合判定委員会

厚生労働省が平成12年に示したがん検診の指針に則り、横浜市では13年10月よりマンモグラフィ装置のある市内の47医療機関におけるマンモグラフィ併用検診が開始された。

対象者は50歳以上の偶数年齢者とし、上記医療機関は視触診とマンモグラフィを同時実施とし、装置のない医療機関と集団検診は視触診のみを実施し、装置のある医療機関でのマンモグラフィ撮影を行うというシステムでスタートした。

本システムの特徴は、精度向上の為、次のようなダブルチェックシステムを採用している。まずマンモグラフィ実施医療機関でフィルムの1次読影を行い、検診開始と同時に発足した総合判定機関において、判定委員である学会認定医師による2重読影と総合判定を行い受診者への結果通知を行っている。当協会は事務局としてその運営を担当している。

13年10月より、毎週1回判定委員会が開催されているが、判定会には放射線技師も参加し、医師、技師による合同判定会として運営されている。更に検診に参加している医療機関の医師、技師にも公開され、検診レベルの向上に努めている。

また、横浜市では検診開始に先立ち、医師、技師の技術向上を目的として、学会マンモグラフィ精度管理中央委員会(精中委)と共催で講習会を行った。当協会はその運営についても担当した。

### 1. 講習会(8月3・4日)

医師・技師各50名参加

会場：横浜市大福浦・横浜市民病院がん検診センター

### 2. 準備会 2回(8月1日, 29日)

### 3. 打合せ会 2回(12月4日, 3月20日)

### 4. 判定会 23回(10月～3月)

平成14年度 (平成14年5月1日現在)

### 横浜市マンモグラフィ総合判定委員会判定委員名簿

委員長	福田 護	聖マリアンナ医科大学乳腺内分泌外科
副委員長	八十島唯一	八十島クリニック
	中島 康雄	聖マリアンナ医科大学放射線科
	小田切邦雄	青葉台クリニック
	奥村 輝	南山田クリニック
	土井 卓子	国立横浜病院外科
	清水 哲	横浜南共済病院外科
	郷地 英二	国立横浜東病院外科
	松本 純一	聖マリアンナ医科大学横浜西部病院放射線科
	山内栄五郎	聖マリアンナ医科大学横浜西部病院放射線科
	久保内光一	よこはまと胃腸の病院
	初山 信義	横浜市がん検診センター
	櫻井 修	横浜旭中央総合病院外科
	小池 繁臣	横浜市立大学医学部放射線科

(事務局・栗原 博)

## 乳がん集団検診協力医療機関連絡会

県域の乳がん集団検診は昭和52年度から開始された。53年以降は県が実施主体となって、「神奈川県乳がん集団検診協議会(会長=渡辺弘・聖マリアンナ医科大学名誉教授)の技術指導のもとに協会が委託を受け実施した。

その後昭和62年度に乳がん検診が老人保健法に加わり、実施主体が市町村に変わったのを契機に、当協会を事務局として「乳がん集団検診協力医療機関連絡会(会長=渡辺弘・同上)」が新たに発足し、検診の実務が遂行されている。

同連絡会は「県成人病管理指導協議会乳がん部会(部会長=渡辺弘・同上,事務局=県福祉部)」の指導のもと検診の精度管理面の検討と、検診の円滑かつ効果的な運営をはかるため設置されている。

### 乳がん集団検診協力医療機関

(敬称略・順不同・平成14年7月1日現在)

会長 渡辺 弘 聖マリアンナ医科大学名誉教授

医療機関名	代表医師名
横浜市立大学医学部(第一外科)	利野 靖
横浜市立大学医学部(第二外科)	石川 孝
横浜赤十字病院	山中 研
横浜南共済病院	清水 哲
日本医科大学付属第二病院	家所 良夫
聖マリアンナ医科大学病院	緒方 晴樹
横須賀共済病院	細井 英雄
藤沢市民病院	小林 俊介
藤沢湘南台病院	田村 功
茅ヶ崎市立病院	小林 一博
北里大学病院	石田 和夫
国立相模原病院	秋山 憲義
平塚共済病院	片山 清文
杏雲堂平塚病院	河原 寛人
小田原市立病院	福田 淳
山近記念総合病院	杉田 輝地
西湘病院	原 俊介
秦野赤十字病院	鈴木 弘治
東海大学病院	田島 知郎
三浦市立病院	小澤 幸弘
大和市立病院	竹下 利夫
東海大学大磯病院	中崎 久雄
神奈川県立足柄上病院	堀口 一弘

(事務局・熊沢英明)

## 神奈川県乳房画像研究会

### 設立の趣旨

日本の女性の乳がん罹患率は、年々急速に増加し胃がんを抜いて最も多いがんとなった。この背景の下、マンモグラフィ検診導入に関する研究班(班長 久道茂)も発足し、2000年3月には老健法65号が出され、マンモグラフィ導入検診が勧告された。

日本放射線技術学会では、1996年撮影分科会の中にマンモグラフィ精度管理普及班を発足させ、全国的な規模でマンモグラフィによる撮影技術と品質管理の徹底を計る目的で講習会をスタートさせた。

神奈川県でも平成10年8月、横浜国際親善総合病院で3日間にわたる精度管理普及班による講習会を行った。その後マンモグラフィ検診の精度を高めるためにも神奈川の中に乳房画像研究会を発足させ活動することにした。顧問、代表世話人、世話人は以下の通りであり、年4回研究会を行っている。毎回約200人が神奈川を中心に、東京、千葉、埼玉、群馬、栃木、茨城の各方面から出席している。

- 主催 神奈川県乳房画像研究会  
 共催 神奈川県放射線医学会、神奈川県放射線技師会  
 神奈川放射線技術学会関東部会  
 日本産婦人科医会神奈川支部  
 乳房撮影ガイドライン精度管理普及班  
 後援 神奈川県、横浜市、川崎市、横須賀市

### 世話人・顧問・事務局名簿(順不同)

- |       |        |                |
|-------|--------|----------------|
| 代表世話人 | 萩原 明   | 神奈川県予防医学協会     |
|       | 千安 式部  | 鶴ヶ峰病院          |
| 世話人   | 伊藤今日一  | 国際親善総合病院       |
|       | 飯田由美子  | 東海大学附属大磯病院     |
|       | 加藤 義廣  | 聖マリ医科大画像診断センター |
|       | 小山内司郎  | 聖マリ医科大画像診断センター |
|       | 有馬 史郎  | 聖マリ医科大画像診断センター |
|       | 大内 幸敏  | 聖マリ医科大画像診断センター |
|       | 池田 裕三  | 聖マリ医科大西部病院     |
|       | 前里美和子  | 聖マリ医科大東横病院     |
|       | 相ヶ瀬あゆ子 | 横須賀共済病院        |
|       | 須藤 敏   | 横須賀市立市民病院      |
|       | 井手 紳介  | 神奈川県立がんセンター    |
|       | 石川 光雄  | 北里大学医療衛生学部     |
|       | 高橋 貴子  | 藤沢市保健医療センター    |
|       | 古谷 光宏  | 藤沢市保健医療センター    |
|       | 新井 敏子  | 社会保険群馬中央総合病院   |
|       | 石井 悟   | 船橋市立医療センター     |
|       | 浅野 宏   | 川崎市がん検診センター    |
| 事務局   | 見本喜久子  | 神奈川県予防医学協会     |
| 顧問    | 早野 育男  | 藤沢市保健医療センター    |
- (事務局・萩原 明)

## 神奈川県健康管理機関協議会

### はじめに

神奈川県健康管理機関協議会は、昭和56年に神奈川県労働基準局労働衛生課の指導の下に発足しました。企業の健康管理を、労働衛生機関、健康診断機関の活動範囲に留めず、健康診断前後の教育、事後措置、フォローアップまでをも含めた支援をする質の高いサービスの提供を目指しております。平成13年度の会員機関は18機関で、労働衛生行政へも積極的に協力していくことを目的に、年二回の会合を継続的に重ねております。

### 平成13年度の活動状況

協議会は、平成13年9月4日(15機関19名参加)と平成14年3月13日(12機関18名参加)に当協会役員室で、神奈川県労働局の蒲谷竹美労働衛生課長、高橋俊一主任衛生専門官の臨席をいただき開催された。

平成13年度労働衛生行政の重点を基本として、雇入時健康診断「色覚検査」の廃止、電離放射線障害防止規則の改正、VDT作業の労働衛生上の指針改正、過重労働による健康障害防止、脳血管疾患及び虚血性心疾患等の労災認定基準の改正等の労働衛生行政の施策に対する積極的な連携や周知徹底と啓蒙について協力を行いました。併せて、各機関の運営上の問題点として、レントゲン車の排ガス規制やC型肝炎検査の対応等に関する協議と講演が行われた。

#### 第一回協議会 講演

「中小企業対策と健康管理機関への要望」  
 神奈川県産業保健推進センター 石渡 弘一 所長

#### 第二回協議会 講演

「健康保険組合を取り巻く情勢」  
 健康保険組合連合会神奈川連合会 伊藤隆一 会長代理

### 《神奈川県健康管理機関協議会加盟機関の県内健康診断実施数》 平成13年度実施数 14年度予定数

一般健康診断	1,073,297	1,090,830
特殊健康診断	162,496	160,950
人間ドック(宿泊含む)	107,857	120,970

### 機関名 代表幹事 幹事

- (財)神奈川県予防医学協会
  - (財)神奈川県労働衛生福祉協会
  - (財)ヘルス・サイエンス・センター
  - (財)京浜保健衛生協会
  - (財)結核予防会 神奈川県支部
  - (財)全日本労働福祉協会
  - (財)日本予防医学協会 東日本支部
  - (財)労働医学協会 川崎南クリニック
  - (財)労働衛生協会
  - 労働福祉事業団 関東労災病院健康管理センター
  - (財)労働科学研究所
  - (医)社団 日健会 日健クリニック
  - (医)社団 相和会
  - (社)衛生文化協会 城西病院
  - 労働福祉事業団 横浜労災病院
  - 海外勤務健康管理センター
  - (財)逗葉地域医療センター
  - 神奈川県厚生農業協同組合連合会健康管理センター
  - (財)産業保健研究財団 神奈川診療所
- (事務局・根本 克幸)

## 神奈川健康保持増進サービス 機関等連絡会

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会は、神奈川県下で活動している中央労働災害防止協会認定(名簿登載機関)の健康保持増進サービス機関で組織され、現在 機関が加入している。

本連絡会は、神奈川労働基準局の指導の下、平成2年12月に発足し自主的に運営されており、事業主の責務である労働者への健康づくり活動をより質の高いものにすべく、技術の向上、運営の適正化またサービスを提供するための協議する場としている。

急速な高齢化が進むわが国において、働く人の健康づくりを進めることの目的は、健康で仕事に対する意欲を持った健全な労働力の確保であり、従業員にその能力を十分に発揮してもらおう。社会経済面からも職場の活性化に結び付け、医療費の抑制を目指す点にある。しかしながら長引く経済不況は、企業における健康管理に影響を及ぼしつつあり、その結果として健康づくり事業もここ数年停滞傾向にあるのが実態である。

このような状況に鑑み、厚生労働省では昨年度より「中小規模事業場健康づくり事業」を導入した。

「中小規模事業場健康づくり事業」は、職場における総合的な健康保持増進対策として進められてきた「ここからだの健康づくり(THP)」が大企業を中心に定着しつつある現状を踏まえ、その実施が未だ立ち遅れている中小規模事業場にその実施主体をシフトするものである。

同事業の骨格は、「経営者健康づくり体験セミナー」と「職場健康づくり支援サービス」で構成されている。

本事業は、中央労働災害防止協会に名簿登載した「労働者健康保持増進サービス機関・指導機関」がその実行を担い、事業に要する費用は原則として全額国が負担する。今後本事業がサービス機関・指導機関の果たすべき役割の指針となるものである。

(事務局・北見 護)

## 肺疾患検討会

平成13年6月をもって本会も第100回を迎えた。想えば昭和56年9月22日第1回が開かれて以来、年5回を原則にし、開催場所は神奈川県予防医学協会とし、世話役は一貫して筆者がつとめてきた。毎回の参加者は決して多くはないが、この20年間で休会は大雪を含めて2回だけという精勤ぶり。それにしてもこのような権威の裏付けのない研究会が20年も続けられたことに参加者の皆様に心から御礼を申し上げる次第です。100回の区切りで今後のことを考えましたが最近の2年間をみると参加者の顔ぶれがぐっと若返ってきていますので肺、呼吸器疾患への関心が若い医師に広まってきているように感じたため敢えて続行することにしました。当番制や持ち回り制も考えましたが、やはり世話役が一貫しているのがよりよい方法かと考えています。但し従来の年5回を年4回としました。

### 平成13年6月 第100回記念講演

蝶名林直彦先生(聖路加国際病院内科)

「びまん性肺疾患の診断と治療」

### 平成13年10月16日(第101回)

横浜労災病院呼吸器外科 坂本 和裕先生他

「卵巣腫瘍の肺転移の二例」「ACTH産生腫瘍の甲状腺腫」「赤芽球性貧血を伴った胸腫瘍」「小腸の平滑筋肉腫の両肺転移例」

### 平成14年1月22日(第102回)

市大センター病院 総合外科 前原孝光先生他

「左巨大ブラを切除して判明した腺癌の一例」「縦隔腫瘍と思われた右上葉の微細な扁平上皮癌の転移の一例」「左中肺野の硬化性血管腫の一例」「縦隔腫瘍と思われた胃の印環細胞癌の一例」「右胸腔内にみえた小細胞癌で手術後45日で再発した一例」

以上、平成13年度は都合により3回の開催であった。

(事務局・井出 研)

## 神奈川微小肺がん研究会

本会はヘリカルCTによる肺検診に携わる人たちが交流を深め、その撮影条件や読影基準の統一を図るため平成12年3月に発足した。活動内容としては年4回研究集会を開催している。第6回研究集会からは会員の持ち寄る症例の検討の他に30分ほどの教育講演会も行っている。初回の第6回には聖マリアンナ医科大学の中島康男教授に「MDCT：マルチディテクトCTについて」と題した講演をしていただいた。第7回には県立がんセンターの山田耕三先生が「ヘリカルCTによる微小肺野病変の質的診断」というテーマで、第8回は横須賀共済病院の三浦溥太郎先生が「石綿と中皮腫について」の講演があり、第9回は国立療養所神奈川病院の花井耕造先生が「X線CTの取扱いの実際」というタイトルで、前回第10回は聖マリアンナ医科大学の中村俊夫先生に「突発性間質性肺炎について」講演していただいた。この教育講演は今後も続けていく予定で、症例検討とともに本会がますます発展していくことを目指している。

### 最近の活動状況

第10回 神奈川微小肺がん研究会  
研究集会

日時 平成14年6月13日

会場 神奈川県予防医学協会2階役員室

内容 症例検討

教育講演「突発性間質性肺炎について」

聖マリアンナ医科大学病院

中村 俊夫先生

参加者45名

### 役員

(敬称略・五十音順)

顧問	金子 昌弘	国立がんセンター
代表	田中 利彦	神奈川県予防医学協会
幹事	井出 研	神奈川県予防医学協会
	小田切繁樹	県立循環器呼吸器病センター
	櫛橋 民生	横浜市北部病院(昭和大学)
	駒瀬 裕子	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
	佐藤 雅史	日本医科大学付属第二病院放射線科
	庄司 晃	横浜市立大学付属病院(福浦)第一内科
	中島 康雄	聖マリアンナ医科大学
	野田 和正	県立がんセンター
	萩原 明	神奈川県予防医学協会
	松崎 稔	神奈川県予防医学協会
	三浦溥太郎	横須賀共済病院
	宮沢 直人	平塚共済病院 外科・呼吸器外科
	山田 耕三	県立がんセンター

(事務局・香西 宏信)

## 日本作業環境測定協会神奈川支部

日本作業環境測定協会神奈川支部は、昭和56年7月、神奈川並びに山梨の両県に所在する(株)日本作業環境測定協会会員により設立され、本年で19年を迎えた。

現在、神奈川支部の会員は、自社5、機関31、指定1、委託3、の計40会員である。神奈川支部は設立以来、作業環境測定士の資質向上と測定技術の精度向上、測定機関の業務改善並びに会員相互の親睦を目的として、種々の事業を展開してきた。

平成13年度は、作業環境測定推進大会を始めとして、各種の事業を行った。その主な内容は次の通りである。

### 会議

総会 1回 機関部会全体集会 1回  
理事会 4回 技術専門委員会 11回

### 事業

・第15回作業環境測定推進大会(13.10.4)

講演 最近の法改正と測定との関わり

神奈川労働局労働衛生専門官 炭電 徹夫

講演 事業場における化学物質管理

(1)神奈川県下における化学物質管理に対するアンケート結果

(助)神奈川県予防医学協会 芦田 敏文

(2)我が社における化学物質管理

1.日本ビクター(株) 椎野 恭司

2.住友スリーエム(株) 後藤 昌弘

特別講演 作業環境測定評価基準が出来るまで(仮題)

中央労働災害防止協会 参与 奥 重治

・技術研修会

(1)第1回技術研修会(13.6.29)

特別講演 平成13年度の労働衛生行政の方針について

神奈川労働局労働衛生課長 蒲谷 竹美

一般講演

1)焼却施設におけるダイオキシン類の測定について

鋼管計測(株) 布川 典永

菱日エンジニア(株) 石井 員良

2)神奈川県下における作業環境測定の実態

(助)神奈川県予防医学協会 芦田 敏文

(2)第2回技術研修会(13.11.28)

施設見学会：住友スリーエム(株)相模原事業所

(3)第3回技術研修会(14.3.7)

1)講演 最近の労働衛生の動向

神奈川労働局労働衛生専門官 炭電 徹夫

2)一般講演 労働衛生保護具

～正しく使って守ろう健康～

北里大学医療衛生学部 田中 茂

労働衛生保護具装着体験実習

・講習会

(1)作業環境測定士試験科目一部免除講習会(13.4.20)

### 役員・技術専門委員

役員	技術専門委員
支部長 井澤 方宏	芦田 敏文(県予防医学協会)
副支部長 渡辺 和夫	(オオスミ)
" 田中 直	岸 康博(日産自動車)
運営委員 松井英三郎	竹内猪佐夫(関東菱重興産)
" 井出 正	井出 正(ゼオン分析センター)
" 井上 温	椎野 恭司(日本ビクター)
" 蔭田 道則	竹平 知義(県労働衛生福祉協会)
監事 望月 明彦	三枝 賢治(山梨労働衛生センター)
" 益田 豊記	布川 典永(NKK)
行政 蒲谷 竹美	炭電 徹夫(神奈川労働基準局)
	(事務局・芦田 敏文)

## 神奈川県学校・腎疾患管理研究会

昭和50年に発足26年目。各地区医師会，行政，大学医学部，病院，学校，検診機関が相互に連携し，地道な腎疾患対策を行い，児童生徒の健康に寄与すべく事業を展開している。

### 調査研究事業

1. 小田原市における腎疾患管理で卒業等により，管理除外となった者に対する追跡調査。
2. 学校現場と医療分野の連携を図るため，情報交換の会を実施した。
3. 全身性かつ多臓器疾患に伴う腎障害の検討。

### 総会および研究会

平成13年9月22日(土) Lプラザ(神奈川県労働プラザ) 講演

「学校検尿 - 腎臓病管理指導表の改定にあたって」

講師 大和市立病院

副院長 飯高喜久雄先生

### 医師部会研究会

#### 1. 第30回研究会

平成13年7月14日(土) 神奈川県予防医学協会

テーマ「尿中IgG/Tf測定は体位性蛋白尿と腎疾患の鑑別に役立つのか」

講師 東京女子医科大中央検査部

非常勤講師 竹中 道子先生

#### 2. 第31回研究会

平成13年12月8日(土) 神奈川県予防医学協会

テーマ

「21世紀における腎疾患について」

講師 東海大学病院

小児科教授 市川 家國先生

### 知識普及活動

#### 1. 研究会機関誌「腎」発刊15・16合併号

2,500部

#### 2. 腎臓手帳

700冊販売

### 役員

(順不同・敬称略 14.8.1現在)

会長	酒井 糾	小児腎疾患総合管理研究所所長
名誉幹事	青山 松次	神奈川県医師会
〃	水原 春郎	聖マリアンナ医科大学名誉教授
〃	山田 卓男	横浜市医師会
幹事	飯高喜久雄	大和市立病院副院長
〃	石館 武夫	北里研究所メディカルセンター病院院長
〃	生駒 雅昭	聖マリアンナ医科大学小児科
〃	五十嵐すみ子	(株)メコム業務部長
〃	市川 家國	東海大学医学部小児科教授
〃	奥平 昌彦	茅ヶ崎中央病院レディスクリニック新生児科
〃	忍田 源一	相模原市医師会
〃	佐々木悦子	神奈川県教育庁教育部保健体育課長
〃	河西 紀昭	北里大学医学部客員教授・社会保険相模野病院院長
〃	川田 征一	東神クリニック
〃	川島 令子	横浜市西谷中学校
〃	神山 務	小田原医師会学校医部会
〃	木内 豊治	小田原市学校保健会顧問
〃	木村 泰雄	藤沢市医師会理事
〃	濱崎 祐子	東海大学大磯病院小児科
〃	小坂橋 靖	聖マリアンナ医科大学小児科教授
〃	小島 幸司	藤沢市医師会
〃	佐藤 忠章	厚木市医師会
〃	佐藤千恵子	川崎市立四谷小学校養護教諭
〃	富永 孝	神奈川県医師会学校保健担当理事
〃	杉田 暉道	神奈川県予防医学協会産業保健部
〃	鈴木 忠義	神奈川県立栄養短期大学学長
〃	竹中 道子	東京女子医科大学中央検査部非常勤講師
〃	高橋 久男	相模原市医師会
〃	塚本 信之	横浜市医師会学校医部会顧問
〃	寺島 和光	神奈川県立こども医療センター泌尿器科部長
〃	豊田 博史	川崎市医師会学校医部会副部会長
〃	長坂 裕博	横浜市アレルギーセンター診療担当部長
〃	長洲 堯雄	鎌倉市医師会
〃	中沢 明紀	神奈川県衛生部保健予防課長
〃	中務 紀	茅ヶ崎市医師会
〃	比留川 勝	綾瀬市医師会
〃	中野 猛夫	横須賀市医師会
〃	藤原 芳人	横浜市医師会学校医部会常任幹事
〃	松浦 信夫	北里大学医学部小児科教授
〃	山口 京子	川崎市教育委員会健康相談室
〃	青木 律子	神奈川県立神奈川工業高校
〃	柳川 荘一郎	横浜市医師会学校医部会幹事
〃	由井 史樹	川崎市医師会学校医部会幹事
〃	横田 俊平	横浜市立大学医学部小児科教授
監事	高橋 潤	横浜市教育委員会学校保健課長
〃	花井 弘次	川崎市教育委員会健康教育課長

(事務局・熊沢 英明)

## 禁煙,分煙活動を推進する神奈川会議

### 設立の趣旨

健康被害の明白なリスクファクターである喫煙に対する関心の高まる中で禁煙,分煙指導は呼吸器疾患,循環器疾患,発がん予防などの観点から,極めて重要な課題となっている。

厚生労働省の発表によると,喫煙者の7割が禁煙を希望しながら,ニコチン依存症(薬物中毒)から脱皮できず,医療関係者等の助言・協力がないと挫折してしまう喫煙者が多いのが現状である。

また,「健康日本21」の目標では2010年までに,未成年者の喫煙率を0%に,喫煙が及ぼす健康被害や公共の場,職場における分煙の徹底をあげている。

このような状況の中で医療現場のみならず広く学校,地域,職場等において,禁煙・分煙指導を中心とした,公益的な普及活動を推進するため「禁煙・分煙活動を推進する神奈川会議」が,平成11年11月5日設立発足した。

### 活動内容

- 1 禁煙教室,禁煙セミナーの企画・実施
- 2 講師の派遣
- 3 世界禁煙デー関連事業の開催
- 4 指導者講習会・研究会の開催
- 5 指導者教材の作成・整備
- 6 禁煙外来,指導を行なっている医療機関等の情報収集・提供等

### 1年間の活動(平成13年度)

- 1 禁煙講演会・セミナー・推進大会等開催状況
 

1)高校生	7校	2,380名
2)医療関係者	1回	58名
3)推進大会	1回	236名
4)フォーラム	1回	350名
- 2 イベント参加
 

1)健康生活展 来展者	374名
-------------	------

### 役員(理事会)の構成

- 会長 五島雄一郎(東海大名誉教授)
- 副会長 中山 脩郎(神奈川県内科医学会長)
- 副会長 渡辺古志郎(横浜市民病院副病院長)
- 理事 23名  
(医師,歯科医師,薬剤師,看護師,マスコミ,産業,教育等)  
(事務局・伊藤 久史)

## 神奈川学校保健研究会

県内の養護教諭ら,学校保健関係者が,自主的に研修する場として昭和43年に発足。以来,毎月1回の月例研究会,夏期講習会などを実施している。

### 1.月例会

日時,テーマ,講師,参加者数

4月21日「子どもたちの心の叫びが聞こえますか」青木和雄・教育カウンセラー・31人 5月19日「繰り返す非行・キレる子どもの対応」金井剛・横浜市中央児童相談所・医師・33人 6月16日「チーズはどこへ消えた?」をエニアグラムでみる」後藤節子・国際エニアグラム学会・ファシリテーター・18人 7月7日「集団不適応/学級崩壊の心理学的な理解と教育的対策」大草正信・大草心理臨床教育相談室主宰・21人 9月29日「青少年の病理と家族関係」田中順子・横浜臨床心理オフィス・臨床心理士・29人 10月20日「芸術療法(講義と演習)Part1」関則雄・医療法人社団碧水会長谷川病院・アートセラピスト・23人 11月17日「学校における教育相談」中嶋はるみ・川崎市立犬蔵中学校・13人 12月15日「芸術療法 講義と演習」Part2」関則雄・医療法人社団碧水会長谷川病院・アートセラピスト・28人 1月19日「性の自己決定」谷口雅子・前川崎市男女共同参画センター・25人 ⑩2月16日「定期健康診断の自己管理への応用」入交昭一郎・川崎市教育委員会・健康相談室医師・26人 ⑪3月28,29日「帯津三敬病院・施設見学(ホリスティック医療の実際を見学する)」・計17人

### 2.第33回夏期講習会

日時:平成13年8月21日~23日

テーマ:「いのちを生きる」-心とこころの響きあい-

21日 交流分析・人生脚本とは」杉田峰康・福岡県立大学大学院名誉教授 22日「続・育て直しのしかた」渡辺久子・慶応義塾大学医学部小児科学 23日「心の緊張をほぐすミュージックセラピー」玉木宏樹・桐朋学園講師 純正律音研究会代表 23日「注意欠陥/多動性障害の診断と理解」山崎晃資・東海大学医学部精神科学教授 参加状況:のべ487名

### 会員状況

(平成13年度)

小学校32名,中学校17名,高等学校22名,一般34名。計105名。

役員 (順不同・敬称略。平成14年3月31日現在)

会長	山口 京子	川崎市教育委員会健康相談室
副会長	藤沢 恵子	横浜市立岩崎小学校
幹事	小川 初代	前横浜市立平沼小学校
"	佐藤まゆみ	神奈川県立川和高等学校
"	森田由美子	川崎市立住吉小学校
"	金子 雅代	横浜市立権太坂小学校
"	佐藤千恵子	川崎市立四谷小学校
"	後藤 禮子	川崎市立久本小学校
"	原 久子	川崎市立戸手小学校
"	浅井 恵子	私立横浜中学校
監事	坂井 悦子	横浜市立高田小学校
"	中川 優子	藤沢市立片瀬中学校

(事務局・本田 結)